

## 企画推進部門

留学生指導 アドバイジング

### ■2014年度

留学生相談指導（生活指導）では、留学生個々の問題に対処するだけでなく、問題の発生や拡大を予防するという観点からの留学生の支援に力を入れている。母国を離れ独りで日本にやってきた留学生達も、周りの人々との関係をうまく築いていくことができれば、ひとりで問題を抱え込まずに、周りと助け合いながら日本での生活を成り立たせていけるようになる。そのためには、留学生を日本人学生などの一般学生や地域の人々をつなぐ取り組みや、留学生向け、あるいは留学生をとりまく人々への情報発信などが大切になってくる。相談指導を担当する教員数も限られており、これまでと同様のものを行っていくことには困難が生じてきており、今後予防的な観点からの取り組みが一層重要になってくると思われる。

以下、留学生相談指導で行った2014年度の業務や取り組み等の報告である。

#### 1. 国際教育センター所属の日本語研修コース研究留学生および日研生への対応

##### ▼ 大使館推薦国費留学生：研究留学生（日本語研修生）の受入および相談指導

春学期7名：ブラジル1、ナイジェリア2、マラウィ1、ブータン1、ギリシア1、モンゴル1、（このうち6名が本学へ進学、1名が神奈川県内の他大学へ進学）

秋学期1名：イスラエル1（本学へ進学）

研究留学生受け入れにあたり、渡日前の連絡調整、チューター説明会、渡日直後のオリエンテーションを行った。学期中は個々の学生からの相談に応じるほか、全員に対して個別面談を行い、日本での大学生活や専門分野への進学準備が円滑に進むようサポートした。春学期には臨月で渡日した留学生に対応した。

##### ▼ 大使館推薦国費留学生：日本語日本文化研修生（日研生）の受入および相談指導

秋学期4名：タイ2名、インドネシア1名、ブルガリア1名

渡日前連絡、チューターの手配および説明会、渡日直後のオリエンテーション、学期中の個別面談等を行い、日本での一年間に渡る大学生活がうまく進むようサポートを継続している。

#### 2. 外国人留学生全般に関わる相談指導

▼ 週10件から20件。主な相談内容は、住宅関係（家探し、トラブル等）、家族呼び寄せ、出産育児、指導教員との関係、健康、交流、日本語、経済、奨学金、手続き補助等。年間

を通してみると、新学期(4月と10月)に相談件数が多い。留学生支援に関わる相談も増えている。

### 3. 外国人留学生全般に対する支援

外国人留学生が日本でのネットワークを広げ、順調に生活していけるよう、以下のような支援に取り組んだ。

#### ▼ 交流・相談室「通称105（いちまるご）」の運営

105は2001年に国際教育センター（旧留学生センター）1階105室に設けた交流・相談室で、留学生のニーズに気軽に応じられるように、担当教員の指導のもと学生がシフトを組んでスタッフとして対応しているほか、ここを拠点に留学生と日本人等の一般学生をつなぐ交流イベント等を開催している。現在活動している学生スタッフは約30名である。

#### 1) 日々の活動

開室時間（11：30-14：30）には以下のような活動を行っている。

- ・ 情報提供（生活情報、サークル情報他）
- ・ 手続きの手伝い
- ・ 日本語会話の相手
- ・ 日本語学習の手伝い
- ・ 日本語教科書等の図書の貸出し
- ・ 交流等

また 留学生と日本語会話で交流する「日本語トークタイム」を国際教育センターの一室を使用して週1回昼休みに行っている。

2014年度の105来室者数は延べ約700名であった。日本語トークタイムは春学期は行われず、秋学期に再開された。参加者数は延べ約200名であった。スタッフ以外の日本人学生の参加もある。

#### 2) 交流イベントの開催

2014年度には以下のような交流イベントを開催した。（イベント名／場所／参加者数）

- ・ 新入留学生対象のキャンパスツアー（4月）
- ・ ウェルカムパーティ（4月） 第二食堂／230名（留学生147、日本人学生等85）
- ・ 留学生と日本人学生との交流合宿（アステージキャンプ）（5月）  
横浜市野島青少年研修センター／85名（留学生36、日本人学生等49）
- ・ BBQパーティ（6月）野音／86名（留学生40、日本人学生等46）
- ・ 新入留学生対象のキャンパスツアー（10月）
- ・ ウェルカムパーティ（10月）第二食堂／142名（留学生85、日本人学生等57）
- ・ 留学生と日本人学生との交流合宿（アステージキャンプ）（11月）

- 横浜市こども自然公園青少年野外活動センター：南万騎が原／64名（留学生41、日本人学生等23）
- ・ インターナショナルフードパーティ（1月）国際教育センター／83名（留学生53、日本人学生等30）

今年度の交流イベントへの参加人数は昨年度に引き続き、延べ700人を越えた。留学生だけでなく、日本人学生などの一般学生の参加が増えている。交流合宿（アステージキャンプ）は春と秋、年2回の開催が定着し、春の参加者は85名、秋の参加者は64名と人数規模も拡大している。次の年度の活動にもつながるよう、交流合宿の記録を中心とした報告書を毎年発行している。

### 3) 学内における国際交流活動への協力

この他、学内での国際交流活動等への協力の要請にも応じている。14年度は学長主催の観月の会で、会場設置や受付等の手伝いを行った。なお、2010年より毎年行っていたオープンキャンパスへの参加は都合により、2014年度は見送った。

### 4) 他大学との交流

学生達のスキルアップおよび他大学との交流をはかるため、国内の大学国際交流グループが集う研修会（2月に淡路島にて開催）へ5名の学生が参加した。2003年より毎年参加。3月末のスタートアップミーティングでは参加からの報告が行われた。

### 5) 学生スタッフへの教育効果

105で行われている活動は、留学生への支援として大切なものであるが、学生スタッフにとっても異文化コミュニケーション能力や異文化対応能力を実践的に学ぶ教育的な機会となっている。

なお、105は、国際教育センター1階の改修計画のため、長年拠点としてきた1階105室から2階ロビーの一角へ、2015年度より、場所を移動することとなった。

### ▼ 広報活動：冊子等の作成・配付

留学生への情報提供および、日本人学生と留学生との交流の促進を目的に以下の印刷物を作成・改訂し、配布するとともに、ウェブサイトを利用しての情報発信につとめた。

- ・ 留学生との交流ハンドブック
- ・ 留学生のための学内窓口案内
- ・ 学内外の交流イベントリスト
- ・ 留学生のための住宅の探し方・住み方ガイドブック（日英）

## ▼ 留学生ネットの運用

留学生への情報発信の一環として2008年度より運営してきた留学生ネット（登録者への不定期なメール配信）は、セキュリティ強化のため、2015年1月より学内の新システム利用へ移行した。移行にともない、留学生ネットの運営管理は国際戦略推進機構の留学生指導担当教員から国際課へ担当が変更された。

## ▼ 地域団体との連携による留学生支援・交流プログラム等の実施

以下のようなプログラムや取り組みを行った。

### 1) 個別日本語支援・文化イベントの仲介

地域ボランティア団体(KSGG)の協力により、個別日本語支援を希望する留学生に対し、ボランティアチューターを紹介している。日本語を学びたくても専門の勉学のスケジュールにより国際教育センターの日本語授業がとれない留学生や、個別のサポートを希望する留学生も少なくない。担当となったチューターが、個別に日本語学習の手伝いや論文・レポートの日本語のチェック、就職対策、諸手続きの手伝い等のサポートを行っている（常時留学生50名前後が支援を受けている）。また、手続きや病院への同行など生活面でのサポートを受ける場合もある。出産や育児で心強いサポートを受けた留学生もいる。

個別対応のチューター活動のほか、当団体からは、日本文化体験のイベント（浴衣会、庭園見学、工場見学ほか年数回）も提供されている。秋の鎌倉見学ツアーでは、本学で申し込みのとりまとめを行い、この数年50名を超える参加がある。本年度の本学留学生のイベントへの参加は延べ約150名に上った。

### 2) 生け花体験教室等の開催

新しい試みとして2012年度より上記KSGGのメンバーである生け花講師の協力のもと、国際教育センターにて生け花体験教室を開催している。本年度の開催は1回に留まったが、8名の参加があった。ほかの文化イベント開催の可能性も探っていくことが今後の課題である。

### 3) ホームステイ体験プログラム（6月、11月、3月に実施：54組）

地域団体の協力を得て、週末を利用した、1泊2日（3月春休みは2泊3日）のホームステイ体験プログラムを年3回実施した。家族同伴を含め、本年度は、54組の留学生の参加があった。このプログラムは2003年度から継続して行っている。

### 4) 家族向け日本語教室

留学生会館では、留学生の家族への支援として、地域ボランティアの協力により日本語教室を週2回行っている。留学生やその家族が日本語を学ぶとともに情報交換を行う場ともなっている。

## 5) その他

東京都北区教育委員会が実施するイングリッシュサマーキャンプでは、発足時より参加留学生の募集に協力している。2014年度は、14名の本学留学生がこの行事に参加した。留学生にとっても日本の中学生と交流する貴重な機会となっている。この他、地域からの要請に応え、昨年度、一昨年度は、横浜パレードへのアフリカ留学生の派遣、韓国語指導留学生の募集、子供会行事への学生協力者派遣、交流会の実施等を行った。

また、留学生会館では地域ロータリークラブからの行事提供をはじめとする支援、地域ボランティア団体（RKK）の日本語支援等を受けている。

### ▼ その他の指導業務および支援業務等

- ・新入留学生の大学生活が順調に進むよう、国際課主催の新入留学生オリエンテーション（4月、10月）で留学生活に関する説明を行った。
- ・チューター制度の有効活用のため、学生支援課主催の留学生チューター説明会（4月、10月）でチューター活動への心得等を説明した。
- ・一時貸付けの審査会メンバーとして審査を行った。
- ・大学寮トラブル等への対応へ協力した。
- ・日本での就職を希望する留学生への支援として、留学生ネットやポスター掲示等により就職活動支援に関わる情報の発信につとめた。
- ・留学生の状況やニーズ知るとともに、新入留学生と先輩留学生をつなぐために、留学生グループ（中国留学生学友会、モスリムグループ、インドネシアグループほか）への活動支援やコンタクトを継続して行った。
- ・国際課主催の留学生見学旅行の引率に協力した。

## 4. 学内での組織運営業務等

### 1) 留学生支援WG委員会主査

旧留学生センター生活指導部門で、委員長と事務局をつとめた「外国人留学生支援方策検討専門小委員会（2002-2012年）」を引き次ぐものとして2014年度に国際戦略推進機構専門委員会の下部組織として留学生支援WG委員会が設置され、主査を担当することとなった。2014年度、留学生支援WG委員会では、留学生受け入れ教員への情報提供として「教員のための留学生指導にかかわる12の情報」を改訂発行した。

なお、これまで旧「外国人留学生支援方策検討専門小委員会」で取り組んできた事柄には以下のようなものがある。

「地震対策カード」改訂（2011年度）、生協でのハラルメニュー提供への働きかけ→第2食堂で実現（2011年度）、「住宅を借りる際の注意事項カード」作成（2009年度）、生協のメニューの英語併記提案（2009年度）、留学生が困っていることについてのアンケート調査（2012年度）。「留学生のための住宅の探し方・住み

方ガイドブック」(2012年日本語版作成、2013年日本語版改訂、英語版追加)、留学生グループ代表との懇談会(2009年度、2011年度、2012年度)ほか。

## 2) 横浜国立大学留学生会館 主事

主事として以下のような業務を行った。

- ・ 入居者のトラブル等への対応
- ・ レジデントアシスタント(日本人学生)の選出と指導(毎年レポートを課す)
- ・ 地域ボランティアによる家族入居者向け日本語教室(週2回)開催の支援
- ・ スプリングパーティ、ウィンターパーティにおいて、進行役として協力
- ・ ロータリークラブとの交流

## 5. 他大学との連携

全国国立大学留学生指導研究協議会(東京大学と大阪大学で年2回開催)へ参加し、他大学教員との情報交換や意見交換等を行っている。

(藤井桂子)